

ハンセン病問題公開シンポジウム 「人間を生きるとは」 開催にあたり

真宗大谷派北海道教区のハンセン病問題班はこれまで、ハンセン病療養所へ訪問し、回復者との交流を通して直接お話を聞くことを大切に活動してきました。しかし新型コロナウイルスの感染拡大により事態が一変し、療養所への訪問や回復者と会うことが出来なくなりました。

このような状況が続く中、どのようにして私たちはハンセン病問題の学びを続け、この問題が問いかける課題を多くの人々に発信し、共有していくことができるだろうか。そういう思いの中で協議を重ね、この度、公開シンポジウムを企画し開催する運びとなりました。

ハンセン病問題は決して過去の問題では無く、現代を生きる私たちに無関係の問題ではありません。隔離政策がもたらした差別意識は根強く社会に残り続け、今も元患者やその家族を苦しめ続けています。また、新型コロナウイルス感染症が全国に広がり始めた頃、言い知れぬ不安の中、自らの感染を避けるために感染者に対して向けられた視線の先にも、ハンセン病問題と共通した問題が潜んでいたように思います。

テーマを「人間を生きるとは」とし、私たちは人間として生を受けながら、本当に人間を見失わずに生きていると言えるでしょうか。「人間らしく生きるとはどのようなことなのか」という問いに立ち、一人ひとりが自分にとってのハンセン病問題とは何かを考えるシンポジウムになることを願いとしています。

3名のパネリストが語る言葉を聞き、共にハンセン病問題について考える機縁になることを念じております。



コーディネーター

畠平 諭

北海道教区 ハンセン病問題班 班長
真宗大谷派 第12組 廣圓寺 住職

シンポジウム タイムテーブル

14:00	開場（受付開始）
14:30	開会式・準備
14:50	シンポジウム 第1部（60分）
15:50	休憩（10分）
16:00	シンポジウム 第2部（60分）
17:00	質疑応答（20分）
17:20	閉会式

※シンポジウム終了後、書籍販売ブースにてドリアン助川氏著『あん』をご購入の方を対象に、サイン会を開催します（数量限定）

主催 真宗大谷派北海道教区社会問題研究部会ハンセン病問題班